

# 医大ニュース

No.75 2002.12

発行 京都府立医科大学

〒602-8566 京都市上京区河原町通  
広小路上ル梶井町465

TEL 075-251-5208 FAX 075-211-7093

## 新青蓮会館竣工



### 新青蓮会館の概要

- |         |                               |
|---------|-------------------------------|
| 1.所在地   | 京都市上京区西三本木通荒神口下る上生洲町197-1     |
| 2.敷地面積  | 630.60㎡                       |
| 3.建築概要  | 地下1階、地上4階、鉄筋コンクリート造           |
| 4.建築面積  | 379.89㎡                       |
| 5.延床面積  | 1,250.32㎡                     |
| 6.工期    | 着工平成13年10月17日、竣工平成14年10月14日   |
| 7.総経費概算 | 4億4,000万円(工事費、内部設備、租税、諸経費を含む) |

### 目次

1 新青蓮会館竣工 .....	1	・エディンバラ大学派遣学生レポート .....	10
2 病院長補佐就任あいさつ .....	4	6 お知らせ	
3 教授就任あいさつ .....	5	・京都府立医科大学公開講座を振り返って .....	11
4 トピックス		7 その他	
・大学ホームページの再編について .....	6	・平成14年秋の叙勲の受章について .....	12
・地域医療連携室始動 .....	8	・平成14年度医学教育等関係業務功労者表彰の 受賞について .....	12
5 学内ニュース		・府立医科大学「クリーン作戦(身近な実践活動)」 が実施される!! .....	12
・医学科単位互換事業 .....	9		
・看護学科単位互換事業 .....	9		

# 新青蓮会館竣工

平成14年10月14日、秋晴れのもとに新青蓮会館の竣工式が開催されました。

京都府立医科大学は、平成9年に創立125周年を迎えましたが、京都府立医科大学学友会では、この節目にあたって、21世紀における医科大学の更なる発展と、学生の健全なる育成を祈念され、多くの御学友や関係病院・関係企業の協力のもとに、老朽化した「青蓮会館」を全面的に建て替えることとして活動を続けてこられました。平成8年11月に寄附金の募集を始められて以降、関係の方々のご努力により平成13年10月に着工、平成14年9月末に完成し、竣工の日を迎えられました。

竣工式の当日は、坪内府議会議長、知事代理の竹内出納長、井端学長はじめ関係病院、関係企業、学友会関係者など、200名を超える多くの方々が出席され、式典では、学友会吉田会長の式辞に続いて、知事（代理 出納長）、府議会議長、井端学長からそれぞれ祝辞が述べられました。

特に、井端学長からは、旧会館にまつわる思い出と共に、新しい会館が多くの人に利用され、大学のさらなる発展に寄与し、新しい思い出が生まれ出されると共に、創立150周年に向けて新しい歴史を刻まれるようにとの祝辞がありました。

スペースだけでなく、設備や機能的にも格段に充実した新青蓮会館。学術、会議、親睦など、様々な面で一層の活用が期待されています。



## 1 施設面積及び用途

旧会館

	面積 (㎡)	主な用途
4 階	-	
3 階	171	会議室(2)
2 階	171	和風会議室(2)
1 階	182	事務室・ロビー
地 階	-	
合 計	524	

新会館

	面積 (㎡)	主な用途
	114	休憩室等
	370	会議室(2)、ロビー
	370	和風会議室(2)、会議室(1)、ロビー
	364	事務室、研修資料室、会議室(2)、ロビー
	42	倉庫
	1260	



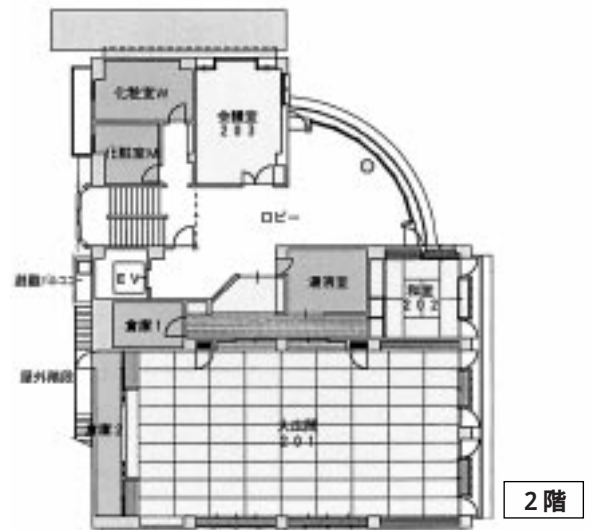
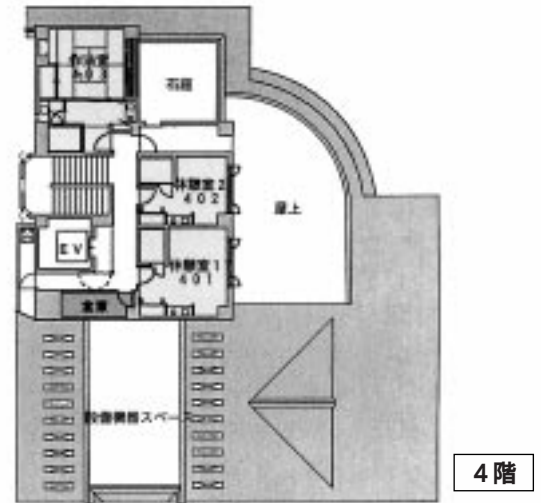
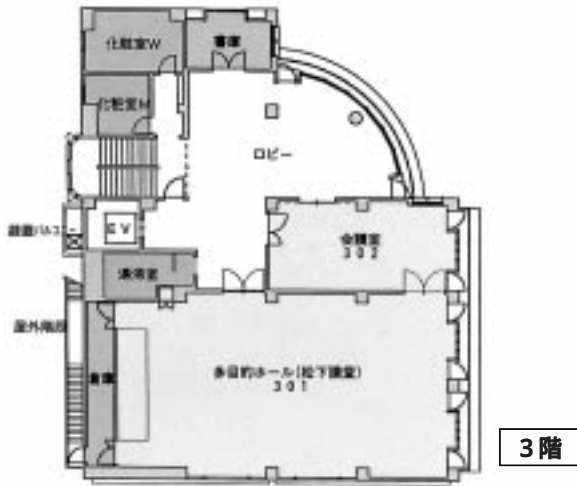
## 2 新会館の特徴

・AV 設備等を完備した180席収容可能の会議室や、81畳敷きの和風会議室が設置され、医学関係会議、各種学術集会や公開講演会、パーティー・コンパ

等に利用が可能。  
・研修資料室を設置し、学友会の所蔵する図書、資料、美術品等を展示し一般に開放するとともに、インターネット

端末を設置し各種情報の入手・発信が可能。

### 3 各階レイアウト



### 4 連絡先

青蓮会館事務局 電話 075-231-0067 FAX 075-256-0571

## 病院長補佐就任あいさつ

### 病院長補佐に就任して



消化器外科学教室 教授 山岸 久一

----- 「患者中心の医療」を目指しながら、高度先進医療機関として「柔軟性のある強い病院への変革（独立法人化に向けての体制準備）を指向する -----

本年6月1日付けで病院長補佐に就任しました。あくまでも補佐でありますので、病院長の方針を実現すべく努力を致します。

現在最も必要なことは、病院の全職員が病院の進むべき方向性と方針を十分に理解できるための運営機構を造り上げることです。すなわち、病院長がある方向性を出した場合にその意向が全ての病院職員に伝達される機構が存在していないのが現状であり、この点が大きな問題であると考えます。また、院内各種役職の選任規定を明らかにして、オープンでフェアな病院運営細則を早急に規定することが重要であると考えています。

平成16年4月より医師は、卒業後2年間は所属する専門分野を決めずに、内科・外科・救急（麻酔を含む）をはじめ、小児科・産婦人科・精神科・地域医療を必須としてその他は自分の希望でいくつかの科をローテーションして研修することになりました。すなわち、救急部門での研修が必須化されましたし、ここでの教育体制の確立が要求されております。そのためには救急病棟の存在が必須となります。大学病院の救急部門は、市中病院の救急では不可能であるといえる、いつでも「全科をカバーできる救

急部門」を有することが特徴であります。これを生かした形の救急部門を造り上げる為に各診療科をはじめ看護部門および関連各部門のご協力とご理解を頂きますよう、宜しくお願いいたします。

まもなく独立法人化となるであろうことを覚悟の上で対応しなければならないと考えます。京都府立医科大学および附属病院では、利益の得られる部分は病院部門だけあります。したがって「病院部門のあり方」の検討が最重要課題であります。従来習慣にとられることなく、柔軟な考え方で新しい世代に対応できる新しい発想を取り込みながら、その上で「患者中心の医療」が出来るような『夢』のある病院への変革（病院部門の再編）が必要になってきていることを強く自覚しております。

病院長補佐としての任務を果たすべく全力を尽くす所存でございますので、皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

### 病院長補佐の就任にあたって



放射線医学教室 教授 西村 恒彦

この度、6月1日付けで病院長補佐を拝命いたしました。病院長補佐として、卒業研修の義務化への対応および高度先進医療の充実を重点項目として担当させていただきます。

#### 1. 新しい卒業研修の義務化への対応

平成16年度から2年間の卒業研修の義務化が開始されます。研修プログラムは、基本研修科目（内科、外科、救急（麻酔科を含む））、必修科目（小児科、産婦人科、精神科、地域保健・医療）を基盤としたスーパーローテート方式となります。また、施設基準として病床10床に研修医1名、指導医はプライマリ・ケアを中心とした指導を行える能力を有していることなどが規定されています。さらに、研修医の処遇として労働者性および研修性の両面に配慮し、かつアルバイトを禁止していることなどが特色です。単純に考えてみても、現在の入局するストレート方式と異なること、研修医数が1年間50名以下と半減すること、現在の労働環境をより良好にする努力が求められていることなど、私共としては180度発想を転換して卒業研修の義務化に対応していかなければなりません。この背景には、社会における全人格的な医師像の要求、大学病院における初歩的医療過誤や某医大における研修医の過労死などがあります。既

に幾つかの委員会を立ち上げ、本学独自の研修プログラムの作成を行い、新しい卒業研修を実りあるものとするため努力していくつもりであります。

#### 2. 高度先進医療の充実について

特定機能病院としての大学病院は、今後益々その専門性が求められていきます。たとえば、京都大学における肝移植や大阪大学における心臓移植は定着した医療として受け入れられつつあり、各々の大学病院におけるシンボルとなっています。残念ながら、本学においては、現時点で高度先進医療に関する積極的な取り組みが多少遅れていると言わざるを得ません。基礎および臨床教室が一丸となって、本学を発信源とする医学・医療を推進していけるよう基盤造りに努力していくつもりであります。

これらの重点項目を中心として本学および附属病院の発展に鋭意取り組んでいく所存ですので、何卒よろしく御支援をお願い申し上げます。

## 教授就任あいさつ

### 身体設計図を求めて



第二解剖学教室 教授 横山 尚彦

平成14年8月1日より第二解剖学教室を担当させていただくこととなりました。私は、昭和55年に東北大学医学部を卒業後、眼科へ入局・細菌学にて免疫学・分子生物学を学び、小児の眼に発生する遺伝子腫瘍である網膜芽細胞種の研究に従事いたしました。その後、さらに網膜芽細胞種の研究を追求するため、東邦大学医学部分子生物学教室・帝京大学市原病院眼科を経て、アメリカ合衆国テキサスにあるペイラー医大

の細胞生物学教室へと移動いたしました。

ペイラー医大にて、偶然に身体の右と左が逆転するマウスの変異体(内臓逆位)を発見し、Scienceへ報告することとなりました。身体の左右は対称であり逆転しても変わらないのではとお思いの方もおられるかもしれませんが、私たちの心臓は左に寄っておりますし、内部臓器の多くは左右非対称的に位置しております。この内臓逆位マウスに出会って、始め対称な受精卵からどうしてこのような非対称性が生まれてくるのか、私たちの形態が一体どの様に決定されるのかと云うことに疑問を持つようになり、研究テーマを網膜芽細胞種より身体の左右非対称性決定へと転換することとなりました。

平成7年に帰国、東京女子医科大学解剖学発生生物学教室へ勤務いたしまして、引き続きこの内臓逆位マウスの原因遺伝子クローニングに取り組み、幸いなことに多くの援助に恵まれ、アメリカ・イギリスのグループに先んじてこの原因遺伝子のクローニングに成功しNatureへ発表いたしました。

網膜芽細胞種と身体の左右形成という全く無関係に思える研究テーマですが、省み

ますと、同一のテーマを追っていたのだということに気がつくようになりました。網膜芽細胞種にしても左右形成に関しても、ある遺伝子の欠失で正常な形態が出来なくなってしまう。逆にいえば、網膜や左右非対称性において正常な形態を形成するには、特定の遺伝子が必要であるということとなります。これらの遺伝子によって正常な形態の形成の設計図が描かれているということになるわけです。

私が最終的に知りたいのは、「自分とは何なのか、どこから来たのか、そしてどこへ行くのか」ということだと思っております。私たちの身体がどの様にひとつの細胞から形成されるのか、われわれの身体を作り上げる設計図はどの様なものなのか、長い地球の歴史の中でどの様に書き込まれて来たのか?また、地球上になぜ人類が出現してきたのか?

無論、私たちはまだその答えを知りません。学部学生・大学院生、また本学のスタッフと共に、これからその答えを探しにいくことを望んでおります。

### 消化器内科のあるべき道



第三内科学教室 教授 岡上 武

平成14年11月1日付けで第三内科学教室を担当させて頂くことになり、一言ご挨拶申し上げます。1919年胃腸科としてスタートした第三内科は、1958年第三代教授に就任した増田正典先生が教室を大きく発展させました。1999年内科 division 化後、第三内科は消化器、血液担当となりましたが、来年には第三内科の名称も消滅する予定で、近い将来消化器と血液はそれぞれ独立する可能性を有しており、私は新たな消化器内科構築の責務を担っています。

私は1969年に本学を卒業し、80~81年にカリフォルニア大学デーヴィス校病理学教室に留学し、肝線維化、アルコール性肝障害の研究に従事しました。帰国後第三内科学教室助手を拝命し、1988年瀧野教授亡き後は、増加し続けるウイルス性肝炎とそれに起因する肝癌を主な臨床・研究のテーマとして来ました。その病態解析と治療、発癌機序の解明を行い、わが国を代表する肝臓外来を構築出来ました。最近では欧米で大変注目されている非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の臨床、研究も精力的に行っています。この間厚生労働省新興再興感染症研究班班員として難治性肝炎の病態解析と新しい治療法の開発に従事しています。

教育面では、1999年12月以来総合診療部部長を併任し、本学の総合診断学の講義と実習を担当し、卒前教育に力を注いで来ました。平成17年度から新たにスタートする卒後研修システムの構築に向けて現在放射線医学教室西村教授とそのプログラムを作成中です。

さて、消化器内科の臨床・研究の将来展望ですが、この10年間で消化器疾患の地図は大きく変わり、現在消化器内科入院外来ともに7割前後が肝疾患と言う状況ですが、関連病院からの消化器全般が出来る医師の

需要は極めて多い状態です。臨床面では画像診断が極めて重要で、総合画像診断の出来る臨床医の育成を目指し教育体制の確立を急いでいます。肝臓癌や消化管癌は早期癌・進行癌ともにPEIT、RFA、内視鏡治療などの内科的治療が主になり、将来この方面は更に発展致します。また、増加し続ける大腸癌や膵臓癌、膵炎、潰瘍性大腸炎・クローン病などの炎症性腸疾患、過敏性大腸症候群などの消化管機能障害などの病態解析と新しい治療法開発も急務です。これらの疾患の先端的治療に対応すべく、分子生物学、遺伝子工学、再生医学などの研究分野をさらに推進する所存ですが、現在遺伝子治療への再生医学の応用にも着手しています。また、関連病院からの要望に応えられる良き臨床医の育成も重要で、卒後教育の充実を目指して新たな試みも始めています。これらの目標達成には、教室員の努力が第一ですが、大学や関連病院の先生方はもとより、各分野の方々のご指導ご鞭撻が欠かせません。努力と誠実。これを基本に良き臨床医と優れた研究者の育成に誠心誠意努力する所存です。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

## 教授就任あいさつ

豊かな高齢化社会のために



附属脳・血管系老化研究センター  
神経内科学部門 教授 中川 正法

この度、平成14年10月1日付けをもちまして京都府立医科大学附属脳・血管系老化研究センター神経内科学部門教授に就任致しました。

当科では、これからの高齢化社会において増加することが明らかである神経内科、老年内科、脳卒中診療科領域の疾患を中心

に診療・教育・研究を行っております。

私は、高校まで福岡で過ごし、鹿児島大学医学部に入学し卒業後、同大学医学部第三内科（井形昭弘名誉教授）に入局、その後、米国コロビア大学医学部神経学教室（ローランド主任教授）に留学、帰国後、鹿児島大学医学部第三内科講師を経て、今回、京都府立医科大学に参りました。

私の医師としての初心は、「難病をひとつでも解決したい」というものであり、遺伝子をキーワードとして神経難病の解決をライフワークにしております。この神経難病という定義の中には、広い意味ではすべての神経疾患が入ります。脳血管障害にしても、予防・治療・看護において着実な進歩がみられますが、今日なお三大死亡原因のひとつであり、早急に克服しなければならぬ神経難病のひとつです。日本の高齢化社会に伴って増加する痴呆症、脳血管障害、パーキンソン病などの克服は国民的課題であり、「豊かな高齢化社会」の実現のために是非とも解決しなければなりません。そのためには、これらの疾患の発症予防に力を入れるとともに、発症後のプライマリ

ーケアからターミナルケアまでの一貫した診療ケアシステム作りが今後の重要な課題だと考えております。

教育の面では、しっかりした医学知識を修得し、最新の医療の動向に目をむけ、社会人としての自覚とけじめを持って行動できる真に力を持った「患者様にやさしい」臨床医・神経内科医を育てることを第一の目標として教室作りを行っていきたいと思います。

研究の面では、痴呆症、脳血管障害、パーキンソン病など加齢に伴う神経疾患を研究してきた当科開設以来十年間の実績を踏まえ、これらの疾患の病態解明、発症予防、治療法の開発を行いたいと思います。また、遺伝性神経難病の解明などにも力を注ぎ、遺伝カウンセリングなどを通じて遺伝や遺伝子に関する患者・家族の疑問や不安にも応える体制を作りたいと思います。

臨床、教育、研究に誠心誠意取り組み、臨床医学から分子生物学までの知見を駆使し、「豊かな高齢化社会」の実現のために貢献したいと思います。よろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## トピックス

### 大学ホームページの再編について

本学では、平成7年度からホームページを開設し運用していますが、ホームページによる情報収集・情報発信が主流となる中で、大学内の様々な情報を迅速かつ多面的に発信し、広報体制の充実と情報の共有化を図るために、大学ホームページの全面リニューアルを行い、11月1日からオープン

しています。

新しいホームページは、掲載されている内容をメニュー一覧に取りまとめるなど、一般の方にもわかりやすい構成としております。また、各所属の最新情報を随時提供できるようにトピックスのコーナーを設置し、情報の新鮮さとPR効果を高めています。

このホームページが、常に新しい情報であふれるよう、各所属からの情報提供をお待ちしております。また、ホームページを御覧になり、お気づきのことがあれば、ご意見・ご提案くださるようお願いいたします。

上に努めました。

#### 1 主な特徴

- (1) トップページに「トピックス」のコーナーを新設し、各所属からの新鮮な情報発信をサポートします。
- (2) 「入学案内」「学部案内」に関するページを充実し、受験者に対する情報提供の充実と大学イメージの向上に努めました。

#### 2 アドレス

http://www.kpu-m.ac.jp

京都府ホームページ「おこしやす京都」からもアクセスが可能

#### 3 内容

項目	主な内容
大学概要	あいさつ、沿革、組織、施設概要、キャンパスマップ、等
学部案内	医学科各教室、看護学科、キャンパスライフ
大学院案内	学則、履修要項、募集要項、学位、特別講義、等
各教室・附属施設案内	各附属施設（病院、図書館、医療センターほか）の概要
入学案内	募集要項、在学生の声、入試状況、進路状況、等
学内情報	研究関連情報、ネットワーク情報、教育委員会情報、等
その他	公開講座、広報誌、産学連携など各種情報、リンク集、等





Kyoto Prefectural University of Medicine

京都府立医科大学

▶ English page

KPUM

CONTENTS

- 大学概要
- 学部案内
- 大学院案内
- 各教室・附属施設案内
- 入学案内
- 公開講座
- 学内情報
- 医療技術短期大学部
- 広報誌・業績集
- 産業連携リエゾンオフィス
- 関連情報・リンク等



Topics

- 平成 14年 11月1日  
オープンキャンパス情報
- 平成 14年 11月1日  
平成15年度京都府立医科大学学生募集要項
- 平成 14年 10月19日  
公開講座情報
- 平成 14年 10月14日  
京都府立医科大学学友会「青蓮会館」竣工

Last modified  
Nov.1.2002

コンピューター室からのお知らせ

このページに関するご連絡・ご意見は、kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp 迄お問い合わせ下さい

京都府立医科大学

602-8566 京都市上京区河原町通広小路 上る 梶井町465番地 TEL : 075-251-5111

Copyright(c) 2002 Kyoto Prefectural University of Medicine. all rights reserved.

【参考】

大学案内	学長からのメッセージ	
	沿 革	
	役 職	
	組 織	
	キャンパスマップ	キャンパスマップ
	財 政 状 況	交通機関案内
	施 設 状 況	
	学 生 数	

(1) 左側のメニュー上の、文字にカーソルを合わせると、その内容がサブメニューとなって、右側に表示され、それぞれの項目を選択すると内容が表示される。

(2) サブメニュー上に「▶」が表示されている項目については、さらに細分化されたメニューが表示される。(全体として三層構造となっている。)

# トピックス

## いよいよ地域医療連携室始動！

先端医学の研究実績を生かし、急性期医療を担う特定機能病院として紹介患者様に満足していただける医療を提供します。

～予約から受診まで～

- 1 診察申込**  
事前診察申込書（FAX送信）を受付します。  
（保険情報を含む）  
受診日を連絡します。  
同時に患者様に受診日のお知らせをしていただきます。
- 2 IDカード作成**  
受診日までにIDカード、カルテを準備します。
- 3 受診当日**  
患者様を地域医療連携室で受付、案内します。  
受付料で受付  
予約のある診療科、指名医師のある場合は時間帯を設けています。
- 4 受診**
- 5 受診後**  
当日の受診を確認し、連絡をします。  
後日、診療情報提供書をお届けします。  
受診後は、一般の患者様と同様の手続をしていただきます。  
<明> 計測窓口 請求書発行 料金支払 薬受取 帰宅  
受診 計測窓口 請求書発行 料金支払 薬受取 帰宅  
院外薬局紹介

業務時間外のFAX受付は、翌日（金曜日）は翌週に  
受診日の調整をいたします。

診療科	専門外来・診療内容
総合診療部	紹介状を持たない新規患者様を診療（内科疾患）
消化器内科	胃腸、肝臓、胆膵、膵臓、内臓腫瘍
循環器内科	高血圧、高脂血症、狭心症、心不全、心臓病、肥満
腎臓・高血圧内科	腎臓、高血圧、高脂血症、狭心症、心不全、心臓病、肥満
呼吸器内科	肺炎、喘息、COPD、肺がん等各種呼吸器疾患
内分泌・糖尿病・代謝内科	糖尿病、甲状腺、副甲状腺、骨代謝
血液内科	血液、造血機能
膠原病・リウマチ・アレルギー科	膠原病、リウマチ、アレルギー
心療内科	うつ病、摂食障害
消化器外科	消化器、胆膵
泌尿器外科	腎臓、尿管、膀胱、前立腺
呼吸器外科	肺癌、呼吸器
内分分泌・乳腺外科	乳腺、甲状腺
移植・一般外科	移植、外科一般
整形外科	骨折、脱臼、変形性関節症、人工関節
形成外科	小児整形、リウマチ、骨折
脳神経外科	脳腫瘍、脳血管障害、脳神経腫瘍
整形外科	骨折、脱臼、変形性関節症、人工関節
産科	妊娠、分娩、母乳相談、胎児スクリーニング
小児科	小児科全般、小児がん、アレルギー
眼科	白内障、緑内障、糖尿病性網膜症
皮膚科	皮膚病全般
泌尿器科	腎臓、尿管、膀胱、前立腺
泌尿器科	腎臓、尿管、膀胱、前立腺
耳鼻咽喉科	耳鼻、のど、めまい、前庭神経
精神科	うつ病、統合失調症、アルコール依存症
放射線科	放射線治療、R1治療、血管造影
歯科	歯科全般、小児歯科、矯正
小児科	小児科全般、小児がん、アレルギー
小児心臓血管外科	小児心臓病、小児血管病
神経内科	脳卒中、物忘れ、神経変性疾患

地域医療連携室  
TEL 075-251-5235  
FAX 075-251-5241  
業務時間 午前8:45～午後5:00  
(FAXは24時間受付)

### 地域医療連携室とは

急性期医療を担う特定機能病院としての役割を十分に生かし、地域の医療機関等との連携の強化を図り、紹介患者さんの診療予約サービス業務を推進する窓口となるのが地域医療連携室です。また、慢性あるいは回復期にある患者さんの転院や在宅療養に伴う諸問題の相談に応じるなど、退院援助についても順次取り組んで行く予定です。

### 業務開始・場所

本年9月25日からFAXによる診察申込みの受付をしています。場所は、医事収納課医療相談係の中にコーナーを設け、室長の福居精神神経科部長をはじめ、スタッフとして医師、看護師、専任の事務職員が業務の運営に当たっています。

### 業務の内容

紹介患者さんが本院での診療をスムーズに受けていただけるように、診察を希望される医師と診察日時の調整を行い、当日までにカルテ等の準備をし、受診当日は待ち時間を短くするようにしています。これに

は医師、看護師の皆様が大変な協力を得ています。

午後1時に申込みのFAXが入ると、翌日に受診希望があれば担当職員も懸命に走り回って予約の調整をしています。

### スタートからの状況

9月25日から11月27日までの診察申込みは73件で、診療所、医員からの紹介が約8割を占めています。本院での主な受診科は内科17、外科25、耳鼻咽喉科11、眼科10となっています。

また、受診後の結果を医療情報提供書とは別に、即日、紹介元に連絡していますが、その結果 (1)本院での治療、検査を引き続

き行う34件、(2)本院で入院・手術18件、(3)紹介元での治療継続13件、その他3となっています。

### これからの業務

紹介元の拡大のため、医局、診療科に業務案内の送付先リストの提供をお願いします。

また、退院援助のために他病院や、福祉サービス関係の実態を把握して、情報を蓄積しつつ、病舎からの要望に応じて具体的な援助を進めます。

まだスタートしたばかりで、診察予約の方法等改善すべきことが山積していますが、スタッフ一同、試行錯誤しつつ病院の経営改善、患者さんへのサービス向上の一助となるように取り組んでいきます。



### 連絡先

電話 075-251-5235

FAX 075-251-5241

e-mail renkei@koto.kpu-m.ac.jp



## 学内ニュース

### 医学科単位互換事業

#### 「がんの化学予防概論」

単位互換とは、他大学の科目を履修し、それを所属大学の単位として認定してもらうという制度で、本学は平成11年度から財大大学コンソーシアム京都の単位互換制度に参加しています。今年度も本学学生が他大学の講義を履修するとともに、本学からは8月1～2日の2日間生化学教室による「がんの化学予防概論」が単位互換科目として他大学学生に提供されました。

両日とも朝9時から夕方4時10分まで、がんの化学予防についての講義が合同講義棟及び第1・2講義室において行われ、京都府内の20大学及び早稲田大学の単位互換履修生、85名が受講しました。

講義のなかではスライドやOHP等が効果的に使われ、先生方の丁寧で熱心な講義に対し受講した学生からは、「普段触れることのできない分野の講義を聴けて大変よかった。」「がんのメカニズムから最先端の研究まで幅広く聞くことができてよかった。」「今後自分が勉強していくきっかけになった。」など、大変好評でした。また、「2日間ではなくもう少し日にちをかけて実施してほしい」との声もありました。

今後“本学からどのような内容の講義を提供してほしいか”と

の問いには、例年同様、他の学部では経験できない医学部ならではの講義を希望する声が圧倒的多数であり、他大学学生の医学部の講義への関心の高さが感じられました。



### 看護学科単位互換授業

#### 「やさしい看護学～からだの動きを助ける方法～」

今年度の単位互換授業は基礎看護学の教員が担当しました。8月1日から2日の夏季期間中に看護学学舎で実施しました。講義と実技で学ぶ授業で「からだの動きを助ける方法」をサブテーマに募集し、定員50名を大幅に上回る129名の応募者がありました。その中から62名を選考し、最終的に2日間全出席した50名が履修しました。受講生は4年制の大学生が9割を占め、女性が7割で、学年では2年及び3年生が9割を占めていました。

講義は「看護とは」「からだの動きとなりたち」「姿勢と体位」「ボディメカニクスを活用した体位変換」の内容でした。講義方法はビデオやプロジェクターなどを使用し、受講生がイメージしやすいように工夫しました。実技は「ボディメカニクスを活用した体位変換の実際」で、「仰臥位から側臥位・長座位・端座位へ」「ベッドの上方への移動」などを実習室でグループに分かれて行いました。

授業に関するアンケート結果は、講義および実技にほぼ全員が満足していました。主な感想は“看護をしてみたくなった”“大学の授業ではできない体験ができた”“今まで力まかせに介助していた腰を痛めていたが、これからはボディメカニクスを利用して楽に安全に介助ができると思う”“この科目を受講できていま

で知らなかった技術が習得できて大変価値があった”“時間が短かった”などでした。受講生の皆様には高齢者や障害をもつ方たちに、安全で安楽なからだの動きを助ける方法について講義と体験を通して、理解してもらうことができたようです。



# 学内ニュース

## エディンバラ大学派遣学生レポート

### エディンバラの医師たち

六年 尾割 道代

去る3月4日より3月31日までの4週間、Edinburgh 大学における臨床実習の機会を頂きました。Royal infirmary of Edinburgh の Department of Diabetes (糖尿病内科部門)で実習させて頂きました。

英語のできない私は、電子辞書と英会話ハンドブックを常時持ち歩く生活をしたわけで、実習では外来を見学させて頂きました。実習内容については医学振興会の方に寄稿させて頂きましたので、ここでは別な話題にしたいと思います。

「Edinburgh 大学の学生とは会いましたか」とよく尋ねられました。残念ながら、試験期間と春休みであったため Edinburgh 大学の学生とは会うことが出来ませんでした。病院の隣にある医学部を、ここで Sir Arthur Conan Doyle も勉強したのだなと感動しつつ見学していたところ、掲示板に試験結果が掲示してありました。府立医大で私たちが受ける定期試験は、主に筆記試験です。一方、掲示板を見たところ、Edinburgh 大学では筆記試験に加えてエッセイ、レポート、OSCE とあり、各項目で点数がつけられた上、総合評価されていました。試験を受ける方も、評価する方も大変だと思いました。

卒業してからも日本とは違うようでした。

ある Dr.に「どうして diabetologist (糖尿病専門医)になろうと決めたのですか」と尋ねたところ、「cardiology (心臓内科)が私を受け入れなくてね。もちろん、今では diabetology が楽しいよ」と答えられました。スコットランドでは、医学部卒業後 house officer として1年間、病院で内科・外科を中心にローテート研修をして、その後は、senior house officer (SHO)として2年以上経験を積んだ上で、GP (家庭医)あるいは specialist registrar (認定医)になるそうです。この SHO から specialist registrar になるのが難しらしく、希望者全員が希望通りになれるわけではないそうです。内科では MRCP (Member of the Royal College of Physicians)であることに加えて、research をしたり、大学院にいて博士号 (Ph.D や M.D.)をとるとなりやすいけれど、毎年の募集人数は全体の約50~70%で、前述の Dr. は、cardiology の部門にあちこち応募したけれど空気がなく、diabetologist になったということでした。specialist registrar になって5年以上してコンサルタントになると、クリニックでは他の Dr.



Royal Infirmary of Edinburgh

(SHO など)が診察した患者全員に関する責任を持つようになります。

クリニックには、週3日午前だけくる女性 Dr. もいました。子育てをしているのでパート勤務をしているそうで、専門医ではないため、判断が難しい場合はコンサルタントに相談しながら診察をおこなっていました。病棟は古くてボロいから外来だけをするのだ、という Dr. もいました。

いろいろな個性のある Dr. 達で、外来の様子も Dr. によって個性があり、楽しく実習させていただきました。最後になりましたが、今回の派遣にあたって、多くの方々にお世話になりました。どうもありがとうございました。



お昼休み



エディンバラ大学医学部



Dr. Roderick Warren consulting room にて

# お知らせ

## 平成14年度京都府立医科大学 公開講座を振り返って

平成14年度京都府立医科大学公開講座が、10月19日(土)本学看護学舎において、開催されました。

テーマは、「看護は、あなたの人生の心強いサポーター ～あなたと考えるよりよき老後の備え～」看護学科の先生方により、「看護とは」、「よりよき老後の備え」のテーマで講義が行われた後、今回は、車いすの使い方や、負担の少ない体の動かし

方、高齢者の疑似体験等の体験講座を実施しました。

実際に、身体を使って体験することで、高齢化や介護といった問題を身近に感じていただくことができたようで、参加者からは「大変参考になった」、「色々な体験ができて、とても有意義だった」等の声が寄せられ、大好評でした。

「老後についてさらに継続して教えてほ

しい」「介護の技術・方法について学びたい」などの要望もあり、参加者の関心の高さがうかがえました。今後とも、より充実した内容で継続できればと思います。

なお、11月10日(日)には、本学図書館ホールにおいて、「こどもの健やかな成長を支える」をテーマに講座を開催しました。

その内容は次号で報告します。



## その他

### 平成14年秋の叙勲の受章について

国家又は公共に対し功労のある方を対象に実施される叙勲（平成14年秋）について、3名の本学関係者の方が受章されましたので、お知らせします。

氏名	勲等勲章	功労功績	備考
たかもと 高本 薫	勲四等旭日小綬章	教育研究功労	京都府立医科大学名誉教授（生化学教室） 元京都府立医科大学進学部長 （本学在職期間 昭31.5.1～昭63.3.31）
しまだ のぶお 島田 信男	勲四等旭日小綬章	教育研究功労	京都府立医科大学名誉教授 （臨床検査医学教室） （本学在職期間 昭25.1.31～昭31.8.31 昭33.10.1～昭63.3.31）
おち けいこ 越智 敬子	勲六等宝冠章	看護業務功労	元京都府立医科大学附属病院副看護部長 （本学在職期間昭38.4.1～平12.3.31）

### 平成14年度医学教育等関係業務 功労者表彰の受賞について

上記表彰は、医学教育等の関係業務において特に顕著な功績のあった方々に対して文部科学大臣が行うものですが、この度本学から森岡清さん（附属病院事務部）と木下妙子さん（附属病院看護部）が受賞され、表彰式が、平成14年11月26日（火）午前11時から『ホテル フロラシオン青山（東京都港区南青山4-17-58）』において行われました。

### 府立医科大学「クリーン作戦 （身近な実践活動）」が実施される!!

平成14年10月30日（水）のお昼休みに、井端学長、種池看護学科長を始め、多くの教職員、学生の方々にボランティアとして大学周辺の歩道や鴨川河川敷等の清掃活動にご参加いただきました。

参加者はビニール袋を片手にゴミ拾いや草引き等を行いました。紙くずや空き缶・空きビンだけでなく河川敷では電気カーペットが収集されるなど、短時間ではありましたが、医大周辺の美化に一役買うことができ、清々しい気持ちで終えることができました。

昨今、ゴミの減量化やリサイクル活動など環境に配慮した取り組みが実施されており、環境や地域の美観等に対する府民の皆さんの意識も一層向上しています。

このような中で、今回の美化活動を通じて、本学においても各職場単位でこのような取り組みが根付くとともに、普段からなるべくゴミを出さず、リサイクル可能なものはリサイクルに回し、路上等に落ちてくるゴミを発見したら拾うといったことを心がけていただくなど、教職員の皆さんの美化意識の一層の向上に貢献できれば幸いです。



平成14年 12月号

編集・発行

京都府立医科大学

（庶務課企画情報係 電話075 251 5208）